

苦難が生じる。その苦しみを担う時に、愛が生きられ、実りが与えられることを心に刻みたい。

台風（15号、19号、21号）被害報告

◆東北教区◆

4 教会で会堂等が被害

10月に発生した台風19号により東北教区でも各地で被害が発生した。教会の会堂等が被害を受けたのは4件。角田教会は会堂が床下浸水、雨漏りの被害を受けたことに加

え、付属幼稚園の園庭に土砂が流入、園バス等が水没した。川俣教会は会堂の一部が床上浸水、敷地内に土砂が流入した。磐城教会は会堂が床下浸水、牧師館は床上15cmの

浸水被害を受けた。本宮教会は礼拝堂と隣接の幼稚園園舎が2m弱の浸水被害を受けた。また会堂は被害を受けなかったものの、仙台愛泉教会では教会を含め13の教会・附帯施設において、教会

員宅や職員などの関係者宅での浸水や土砂流入の被害も多数発生したとの報告も受けている。

教区は被害報告を受け、本宮教会、磐城教会に対して泥出し・清掃等のボランティア活動を計画、作業を行った。作業日数は5日間、教区内外から延べ25名がボランティアに参加した。本宮教会は会堂の床一面に2ミリの泥が堆積しており、また会堂ベンチなどの備品類もほぼすべてが泥に覆われている状態

であった。そうした泥をブラシで掻き出したり、雑巾で拭きとったりといった清掃を行った。結果、屋内の清掃作業については概ね完了することができた。磐城教会では牧師館の和室の床板を外し、床下の泥の除去を行った。またそこから基礎の合間を縫うように他の部屋の床下へと潜っていき泥を掻き出した。こちらでも予定した作業は完了に至った。本宮教会、磐城教会ともに今後は専門業者が入り本格的な修繕を行う予定。



2メートル弱の浸水被害を受けた本宮教会

かにた教会、かにた婦人の村に大きな被害

◆東京教区千葉支区◆

昨年、千葉県は三度にわたる大きな災害を被った。9月9日の台風15号、10月12日の台風19号、そして10月25日の台風21号の影響による記録的短時間豪雨である。そして、その度に教団をあげ、祈っていただき感謝にたえない。

台風15号は、最大瞬間風速57メートル超の今まで経験したことのない大型台風であった。特に大規模停電や風雨による直接被害で南房総地区は大きな混乱状態となった。また千葉市は明け方、台風15号の通り道となり、道路標識は根元から曲がり、信号は横を向き、街路樹が倒れるなどの被害があった。中心部近くでも停電となり、交通網は

混乱した。当初、朝9時には動き出すと言われたJR、私鉄各線も復旧が進まず、東京方面からのJRは幕張以遠が終日運休となった。

千葉支区内の教会も建物被災、敷地内樹木の倒壊、停電により、多くの困難があったが、とりわけ、かにた教会、かにた婦人の村の被災支援活動は今なお続いている。ク

しつ、千葉支区でも千葉内房分区を中心として館山市内の教会以外の住宅へもボランティア派遣を行っている。

台風19号は15号ほどではなく、むしろ、長野や東北の被害が知られている。しかし、銚子教会は外壁がはがれる被害があった。

10月25日の豪雨では教会の被害は多少の雨漏りなどはあったが目立つものはなかった。しかし、多くの地域で洪水や土砂崩れによる死者が出たことが知られているように、地域によって大きな



かにた婦人の村、屋根修復

◆東京教区東支区◆

大島の2教会、関係保育園に被害

東支区での主な台風被害は、大島の波浮教会、大島元村教会と関係保育園だった。罹災当時の被害状況をまとめて記す。

◎波浮教会

会堂の講壇側の屋根が破損し、講壇部分の内壁が落下。会堂の床が水浸し、説教壇が聖書と共に濡れた。講壇両脇の小部

屋天井から雨漏りし、窓枠の隙間から雨が吹き込み、堂内に水溜まりができた。牧師執務室の窓が割れ、購入して1年経っていないコピー機は水が溜まるほど濡れてしま

18年、床の上張り工事をしたばかりだった。玄関付近は、コーキングをしたばかりだった明かり取りの窓から雨が入り込み、水浸しになった。会堂隣の物置のトタン屋根と外壁が剥がれて飛散した。物置のトタン屋根と他所から飛んできたトタン屋根が教会の庭に大

量に集積した。外壁については、会堂・牧師館共に多数の損傷を受け、その他、教会敷地入り口の教会看板が壊れ、重量の透明アクリル板も飛ばされた。

波浮教会は当面、大島元村教会で合同で主日礼拝を守ることとなった（12月第一主日まで）。



トタン屋根が集積、波浮教会

◎波浮保育園
屋根の防水シートがすべて剥がれ落ち、保育室が使用不可。園舎の窓が割れ、クーラーが一台損壊。組み立て式のプールが、鉄門扉を飛び越え、都道と駐車場も越えて奥の畑に飛ばされて破損。

◎大島元村教会
教会堂の屋根瓦・雨樋が数か所破損。サッシの隙間から雨水が大量に侵入し、1階と2階のそれぞれ、台所の被害が大きかった。会堂の外浄化槽プロローが破損。牧師館では2階で雨漏りが発生。

◎北ノ山保育園

台風後に浄化槽プロローが壊れたが、台風が原因と思われる。

(藤盛勇紀報)

このことに関連して、1教区から記事そのものの提出を断る旨の意見表明が出されていることへの対応について協議したほか、献金の使途を明確にすべきであるといった

意見が出された。続いて久世そらち教団機構改定検討小委員長は、小委員会における協議の概要（機構改定の必要性、教団総会議員数・常議員数の変更、事務局・委員会の改定）、教団総会議員数の変更に伴う経費の見通し、機構図案を説明した。

(雲然俊美報)

▼伝道対策検討委員会▼

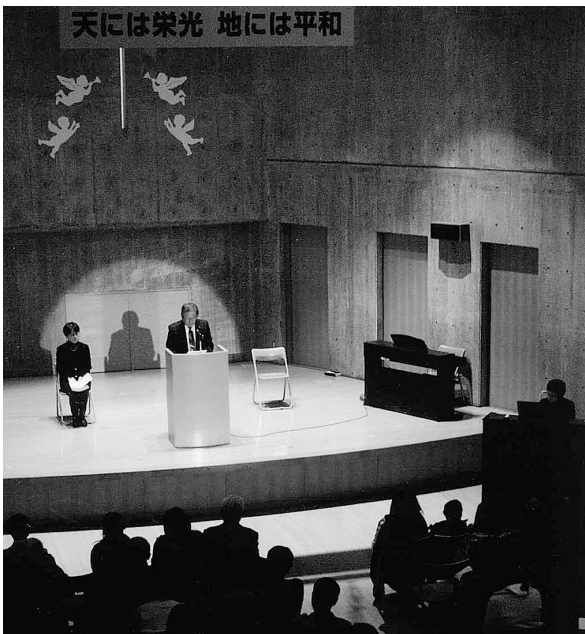
機構改定議案 7月常議員会で作成・公表へ

12月6日、教団会議室にて、第5回教団伝道対策検討委員会を開催した。前回記録承認後、岸俊彦教団伝道推進基本方針展開検討小委員長は、『信徒の友』に掲載している「日本伝道の推進を祈る日」の各教区からの記事について、複数の教区より、祈りに覚える教会として2教会を選ぶこととは難しいとの意見が寄せられており、その場合には各教区の状態を紹介するようにお願いしている」と述べた。

これに関連して、教規の条文変更の内容や運用面について常議員会においてきちんと議論すべきである、沖縄教区との関係回復が必要である、機構改定によって経費をどれくらい削減ができるのかを明確にすべきであるといった意見が出された。

総会に議案の概要を提示して、7月の常議員会で議案を作成・公表することを次の常議員会に提案することとした。

さらに、教団総会に機構改定・関連教規変更議案を提出するためのスケジュールについて協議し、2020年の各教区



クリスマス礼拝

「小さい者の一人」をわたし自身の中に見出すとき、神の前に謙虚でへりくだった自分にイエスの言う「わたしにしてくれたいことなのである」との御言葉が生きる道標として示されることを信じ、祈りつつ向き合いたいと思う。

「はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイによる福音書25・40)。
一昨年3月東京都目黒区で当時5歳の女の子が虐待死した。継父より字の練習を命じられ、食事の制限「しつけ」と称して不適切な扱いの日常だった。同年5月、大阪の警察署に70

社会は、これからの日本の次世代を担う若者を心身ともに健全に育て社会に送り出すとともに、長く生き日本の社会を支え担ってきた高齢者への敬意を払った支援等、大切な社会的使命を負っている。
社会福祉法人仙台キリスト教育児院は、1906(明治39)年2月27日雪交じりの冷たい雨

のなか、アメリカ人女性宣教師が前年、南東北地方を襲った大凶作により飢えに苦しむ7名の貧孤児を救済して今年で創設115年目となる。
創設の精神である「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマの信徒への手紙12・15)を支えに、その時代の時代に神様の導きで様々な困難を乗り越えてきた。



伝道報

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

小さい者の一人

東北教区・社会福祉法人仙台キリスト教育児院 院長 鈴木 重良

最新の人口統計によると日本の総人口は1億2615万人、うち14歳以下の年少人口は1528万5000人で全人口の12・1%、65歳以上の老年人口は3580万1000人で全人口の28・4%と年少人口の倍以上と

入所児童の虐待ケースは増加傾向にある。児童は家庭、家族という大切な拠り所を失うことで、社会生活を営み人生を送るために欠かせない自尊心、自己肯定感、自信を喪失する。社会はこれらの事情をその家庭の個別的問題として特別視するのが一般的である。どの家庭、家族においても子育て、家庭生活を安定的に送ることは単体の懸命なやる気のみでは困難で多くのサポートが欠かせない。

◆ 四国教区と関西学院大学との協定 ◆
神学生の研修プログラムを教区で

12月2日に行われた、四国教区本年度第3回常置委員会において、関西学院大学神学部と四国教区との間で、神学生の研修プログラムに関する協定が結ばれた。

今回の協定締結に繋がったのは、四国教区の「神学校との対話」という取り組みである。四国教区では、神学校を卒業してすぐの教師を迎える場合が少なくない。そのような形で赴任する教師を支えることが、教区の重要な役割である。そのため、神学校との対話を通し、今の神学生の状況を受け止め、地方教区の現状を伝える機会を持っている。

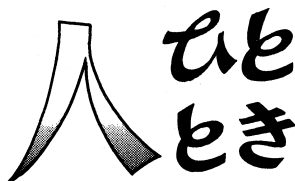
本年3月に、四国教区は関西学院大学神学部長中道基夫氏を招き、教会で奉仕の機会を設け、教区三役との対話の時を持ち、協議を行った。この協議の中で、関西学院大学神学部から神学生の研修プログラムを四国教区で行えないかとの提案があった。同神学部はかねてより教区等と連携して伝道者育成の実践的な機会を神学生に提供できないかと考えており、その設立教会である南メソジスト監督教会が、瀬戸内海沿岸で伝道を展開し、四国の多くの教会の設立に関わってきた歴史



左=中道氏、右=黒田教区議長

的経過を踏まえての提案であった。その後四国教区でも協議を重ね、協定を結び、具体的な取り組みを開始することになった。協定で確認した目的は、「神学部の学生が、教会での伝道応援の機会を得ることを通して、四国教区の宣教の課題に触れ、将来教会・地区・教区の宣教の課題を担う伝道者となる基本的な経験を得ることを目的とし、本年度は来年2月か3月に若干名の神学生を受け入れ、四国教区で研修の機会を持つ予定である。教区と神学校が牧師養成の働きに僅かでも協力できることは、牧師養成にとって重要なアプローチである。四国教区と関西学院大学神学部はこの研修プログラムを積み重ね、育てていくことによって、宣教推進に寄与していきたいと願っている。

(黒田若雄報)



眞嶋 命さん

牧師の子、悲喜こもごも



1995年東京都出身、新津田沼教会会員

父は現役の教団の牧師である。大きな病が与えられてから約6年が経過し、今年度初めて牧師としての最前線から離れることになった。父の決断の前で涙を流した自分に、「信仰があるなら死を恐れる必要はない。永遠の命が与えられているから」と父は言った。

いた自分にとって、信仰者の道はどう考えても歩むことができない道だった。右の頬を打たれれば左の頬を出す、もちろんもっと深い意味があると思いながらも、それは無理だというのが信仰告白前の自分だった。

教会育ちゆえ、信仰の世界があまりにも当たり前になっていた自分が初めて真剣に祈ったのは高校1年。ネットゲームで知り合った友人が、後遺症が残るほどの大けがをした時だった。しかし、それが信仰告白へと導いたかと言えはそうではなかった。

しかしある時、父親以外の牧師の「信仰義認」を語る説教が目を開かれた。神は人間の弱さを容れ存じであられ、それでもなお神は人間に信じることを求めておられるとの言葉に心が軽くなった。当時、部活動の関係で、他教会の夕礼拝に出席していた。父親への小さな反抗だったかもしれ

夏の休暇で沖繩にいたとき、「葬儀の依頼がある。セレニーホール平塚さんに電話して」とのメールが教会の担当者から来た。「?」、平塚は妻の妹がいて両親の葬儀の司式をした。沖繩から駆けつけることは不可能。平塚に近い横浜明星教会、網中彰子牧師に依頼したら引き受けて下さった。「葬儀社に電話してください」とお伝えした。「感動の葬儀だった」とご遺族から感謝のメール。2週間後、委員会で網中先生から「平塚ではなく越谷だった。越谷まで葬儀に

行った」と聞かされて驚いた。「セレニーホールの平塚さん」だった。「の」を飛ばして平塚と思ひ込んでしまった。以後、網中先生に頭が上がらない。

頭が上がらない

頭が上がらないといえ、幼稚園の副園長にも頭が上がらない。幼稚園の仕事は丸投げだ。普段仕事をしないで幼稚園に来たら勝手な指示をすることに腹を立てまくっていた。石橋先

生はね! 3歳4歳児だ。落ち着きがない。好奇心が旺盛、遊びが大好き。ジツとしていられない。興味があったら人の迷惑を考えずにやってしまう。3歳4歳児に知識がくっついていて「だけだ」と厳しい。幼稚園では、その子の年齢になって遊んでいる。5歳も入れて欲しいと言ったら「何言ってるのよ。5歳児は知恵が発達し判断力もある。5歳児に失礼」と言われてしまった。副園長にも頭が上がらない。

(教団総会議長 石橋秀雄)